

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4190300097
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	グループホーム みどりヶ丘
所在地	佐賀県鳥栖市山浦町2621-1 (電話) 0942-87-3232

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 12.35人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造スレート葺平屋造り
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	13,000円+実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.94 歳	最低	81 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まごころ医療館、古賀素子歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは鳥栖市郊外の高台に位置した住宅地の中にあり、眼下には鳥栖の市街地が眺められる。隣には同一法人の運営する保育園もあり、園児と利用者との交流が積極的にもたれ、利用者の大きな楽しみにもなっている。職員は、常に、利用者を敬い、一人ひとりの活力を引き出しながら、穏やかにその人らしく暮らしていただけるように支援している。関わりの中で迷う時には「自分の親だったら」という気持ちになって考え、支援に取り組んでいる。ホームの庭にある畑では、利用者の指導のもとに季節の野菜が栽培されており、献立にも使われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の作成や、地域とのつきあい、及び運営推進会議の活用等が主な改善課題となっていた。理念や運営推進会議のメンバー等については、検討し改善への取り組みが図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、サービス評価の意義や目的を理解しており、全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。今年度からは、地域住民の代表者にも会議のメンバーに加わってもらっている。会議では主に行事や利用者の状況等の報告がなされており、サービス評価や改善課題等についての話し合いには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議の折に声をかけ、意見や苦情等、何でも言ってもらえるように心がけている。また、玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情受付窓口を明示し説明もしている。これまでに意見箱への投書はなされていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方とは、散歩の時や出勤時等に挨拶を交わしてはいるが、地域の人達との積極的な交流や自治会に加入をするまでには至っていない。地域密着型サービスの質の向上のためにも、地域の一員として、地域の行事等に参加し、地域住民との積極的な関わりを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し「利用者お一人お一人がおだやかに自分らしく過ごすことができるよう笑顔とまごころを持ってお世話させていただきます」という理念を作りあげている。	○	現在の理念に加え、地域密着型サービスの役割を反映した理念作りも期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和をしたり、業務の中でもお互いに確認しあって理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方とは、散歩の時や職員の出勤時等に挨拶を交わしてはいるが、事業所の行事への案内や地域活動への参加もなく、自治会に加入したり地域の人達との積極的な交流までには至っていない。	○	地域の一員として、地域活動や地域住民との積極的な関わりにより、事業所と地域の人達が支えあうような双方向の関係が築かれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、サービス評価の意義や目的を理解しており、全職員で自己評価を実施している。なお、改善課題については、職員で検討しできるところから改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、メンバーは利用者代表、家族代表、事業所関係者、地域住民の代表者1名で構成されている。会議では主に行事や利用者の状況等の報告がなされている。	○	運営推進会議では報告や情報交換にとどまらず、評価の取り組みや評価後の改善への取り組みをモニターしてもらうなど、会議と評価を結びつけるような取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、折に触れ、情報交換や運営に係る疑問点等を相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に、家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等を報告している。また、居間や居室には利用者の日常の様子を写した写真を掲示し、家族にも見てもらっている。	○	ホーム便りの作成が検討されており、早期の実現により、情報提供の更なる充実を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の折に声をかけ、意見や苦情等、何でも言ってもらえるように心がけている。また、玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情受付窓口を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設間の人事異動は必用最小限度に抑えられている。管理者は職員の健康管理や休暇の希望等にも配慮しながら勤務体制を整え、離職の予防を図っている。また、退職者にはその後も顔を見せてもらったり、おやつ作りのボランティアをしてもらう等、利用者のダメージ防止への工夫がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や勤務に合わせて法人内外の研修会に参加している。研修受講者は会議の折等に伝達し、周知を図っている。新しい職員に対しては、管理者や主任等が日常的に指導を行い、知識や技術の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、会議や研修会の折には他のホームと情報交換を行っている。また、同一法人のグループホームの行事に出かけ、利用者共々交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来てもらうことから始め、その後も、訪問を繰り返してもらい食事やおやつを共にするなどし、徐々に馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常に、利用者の気持ちの変化に関心を寄せ、心のふれあいを大切にしながらか支援している。利用者が悲しみを抱えている時は、居室でゆっくりと話を聴き悲しみを共有している。また、職員は利用者から野菜作りや人生の経験に基く生活の知恵等を学び、支えられている事も実感している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日常の関わりの中で、会話や表情等から希望や意向を把握するよう努めている。意思の疎通が困難な場合には、家族から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と話し合ったり、スタッフ間の情報交換を密にし、それぞれの意見や希望を反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて評価を行い、見直しを行っている。なお、状態に変化が生じた場合は、随時見直し、現状に沿った計画で支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、日頃の健康管理や状態変化時の対応、医療者との連絡調整がなされている。通院の付き添いは、基本的には家族に依頼しているが、家族の都合や本人の状況に応じ臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される医療機関の受診がなされている。なお、主治医の変更は本人や家族の希望により行われている。事業所とそれぞれのかかりつけ医との関係も良好で、適切な診療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応指針を定め、事業所が対応できる可能な範囲を家族等に説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬い、利用者の誇りやプライバシーが保たれるように対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大体の流れはあるが、それぞれの利用者のペースを尊重した日々の暮らしとなっている。起床や就寝の時間、食事時間、散歩への参加、入浴の時間や順番等、無理強いすることなく柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、事業所の畑で栽培した野菜を使ったり、利用者の好みに合わせた配慮があり、食材や献立を話題にした会話がなされている。しかし、ほとんどの職員は、利用者と一緒に食事をするのではなく、介助に専念したり、動きながら見守っている。	○	グループホームの基本である、共に暮らすという点からも職員が介助する一方になるのではなく、利用者と一緒に同じテーブルを囲み、同じ食事を食べながらさりげなく支援できるような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴としているが、希望があれば毎日の入浴も可能であり、時間や順番も利用者の意向に添うように対応している。入浴が難しい場合には、足浴や清拭を行っている。また、入浴を拒否される時には、時間をおいたり雰囲気づくりをする等工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や行事の司会、挨拶、保育園児と交流時の振り付けや歌の担当、仏様へのお茶等のお供え、生け花、料理の下ごしらえ、包丁砥ぎ等、一人ひとりの生活歴や力を活かした支援に取り組んでいる。また、同一法人が運営する保育園が事業所と隣接しており、利用者は週2回の園児との交流も楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩をしたり、気候の良い時にはドライブを楽しむこともある。また、職員の住居地のお祭りや利用者にとっての懐かしい場所等へも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は玄関は施錠されていない。利用者の外出希望時には、さり気なく付き添いその意思に添うように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網や災害時対策マニュアルを整備し、年に2回、業者の協力を得、昼夜を想定した火災時の通報や消火及び避難訓練を実施している。	○	夜間等、職員だけの誘導に限界があることを踏まえ、近隣の人達の協力を得た訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量を把握している。食物は利用者に合わせて味付けを工夫したり、柔らかく食べやすい大きさにするなど工夫されている。栄養のバランス等については、法人内の栄養士の意見も聞いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には季節感を採り入れた炬燵や壁飾り、花等も見受けられる。居間兼食堂は日当たりがよく、日差しが強い時にはレースのカーテンをし、利用者にとって不快にならないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は家族に対し馴染みの品の持込を勧め、利用者が安心して過せる居室作りを支援している。居室には整理箆箆や衣装ケース、テレビ、椅子、時計、仏様、壁飾り、家族の写真等が見受けられる。		